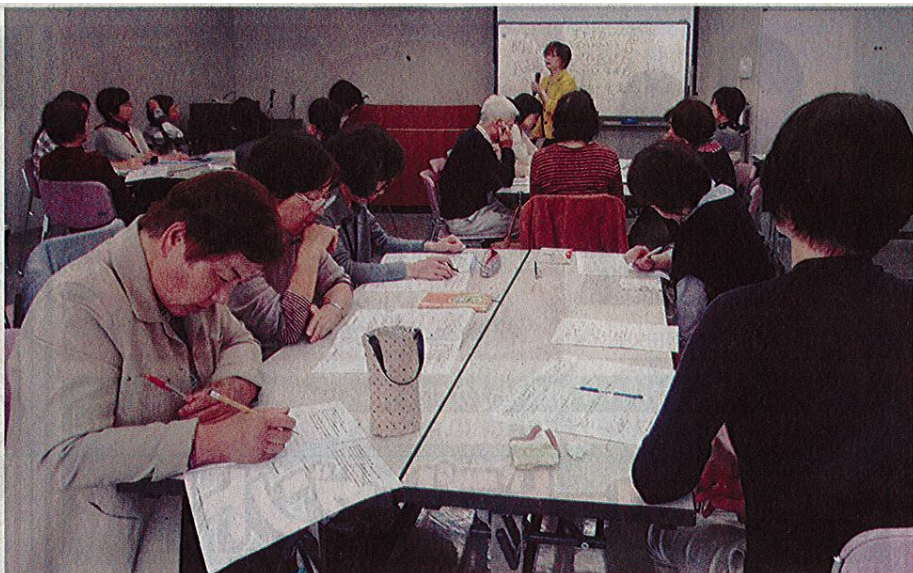


「2016年6月17日 中日新聞北勢版に院長の活動に関する記事が掲載されました。」

お年寄りに 安心感を

桑名市の傾聴ボランティアグループ「みみずく」が、結成から十周年を迎える。身の上話や世間話をして、お年寄りの孤独を解消するのが役割だ。メンバーは「あくまで話を聞く相手が主人公。勇気づけられる存在になりたい」。二十五日には記念イベントを開く。(遠藤康訓)



「独り善がりにならないように」と隔年で外部講師を招いた講習会を開き、傾聴技術の向上を図っている「みみずく」提供

桑名の傾聴団体10周年「みみずく」25日記念講演

みみずくは二〇〇六年九月、市社会福祉協議会の養成講座の受講生二十人でつくれた。現在の会員は四十〜七十代の三十八人。市内八カ所のデイサービスセンターと個人宅二十七軒を、それぞれ月一回から週一回のペースで回る。

一回当たり一〜二時間、話を聞く。世間話や思い出話とは限らず、体の不調や周囲への不満など、愚痴を漏らし続ける人もいる。

「家や施設の人が忙しくて話を聞いてくれない、孤独を抱えるお年寄りは多い」と副代表の松本晃さん(モコ)。「『こうした方がいい』と、自分の意見を安易に言わないように心掛けている。安心感も与えなければならぬ。ただ、話を聞くだけではない奥の深さがある」

記念イベントは二十五日午後一時半から、桑名市総合福祉会館で開催。グループの紹介とともに、いしが在宅ケアクリニック(四日市市)の石賀丈士院長が「桑名に在宅医療の新しい風を」と題して講演する。

代表の服部能里子さん(六八)は「あつという間の十年だった。活動で知り合った人たちのいろんな言葉や表情が心に残っている。私自身の幅も広がったかな」と語る。

市社会福祉協議会 〇五
94(22)8218